

よか ネット

YOKANET

No.71 2004. 9
 (株)よかネット

NETWORK

水城と怡土城の巨大土塁がいつも気になっていた
 ——全国都市再生モデル調査に“水城と観光”で応募した意味—— 2

セスナに乗って上空から水城をながめました 4

第1回市街化調整区域・地域づくり研究会報告
 福岡都市圏の市街化調整区域ではどんなことが起こっているか 5

皆様から寄せられた「よかネット」へのご意見、近況などのご紹介 8

見・聞・食

福岡市の中心、天神のど真ん中にある
 デイサービス「天神オアシスクラブ」 10

中国東北地域 見聞録
 ～老人ホーム、観光、マンション事情 よもやま話～ 12

まちあそびをしよう ～福岡・博多～
 “御朱引集め”をまちあそびのきっかけに 15

近況

ルーツ探し（序章）真田幸村の末裔か？ 16

日中の架け橋となる人材育成NPO設立 16

本・BOOKS

江戸宇宙 17

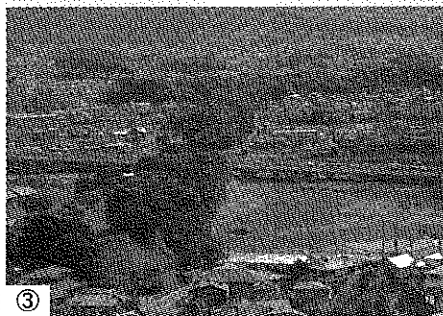
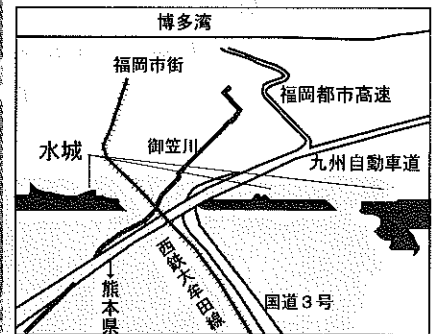
おなかすいてない？ 18

●セスナに乗って上空から水城をながめました



- ①市街地の中の水城
 道路や鉄道が水城を横切っている
- ②6人乗りのセスナ
- ③東側の高台からみた水城
- ④地上でみる水城
 右側（博多側）は水深3m、長さ60mの外壕であった。

(本文2頁)



水城と怡土城の巨大土塁がいつも気になっていた

全国都市再生モデル調査に“水城と観光”で応募した意味

糸乗 貞喜

「太宰府の都府楼跡巨大礎石」と「水城」を初めてみたとき

九州に来て初めて、最初に連れていってもらったのが「都府楼の巨大礎石」だった。誰一人来ている人はいなかったが、整然と並んだ大礎石には圧倒的感銘を受けた。25年ぐらい前のことだが、これだけの礎石を運び、その上にどのような建物が建っていたのか、創造するだけで楽しかった。

この時は、まだ「水城」は知らなかったが、気がついてはいた。

礎石を見て、すぐその上に乗ってみた。そして飛び上がってドシンと落ちて感触を味わった。次の礎石にも乗って同じことをしたが、落ちたときポヨヨ〜ンと狂った太鼓のような音がした。プラスチックの擬石が置かれていた。文句を言うつもりではない。なかなかよいことだと言おうとしている。礎石がなくなっていたような場合、変に御影石で新しく造ったりすると偽物になるし、プラスチックで全体の感じが分かるように、擬石をおいておくということはなかなかの配慮だと思った。そのために、都府楼跡に佇んだ私が、感銘を受けることが出来たのであった。

その後、八女市にある岩戸山古墳の石人石馬、宗像大社、胸方の君を祀ると言われる宮地嶽神社の奥の宮、宇佐八幡宮、熊野摩崖仏、彩色古墳（竹原古墳、チブサン古墳、珍敷塚古墳）の壁画などを見て回った。この間、こういった史跡や遺

跡について、何かアドバイスをしてくれるような人には、巡り会っていない様な気がする。それ以来「九州の人はケチだ」と思うことにしている。九州の人は、東京や関西方面の人達からの情報仕入れには熱心だが、九州の凄い情報を教えようとはしないように見える。

かくなる上は、とあって私が、他所から来られる人たちに九州の知的情報の押し売り業をしている。もちろん安くて旨い食べ物も、すぐれた知的情報である。

怡土城の土塁を見て「日本も万里の長城みたいなものを築いていたのか」とその規模の大きさに驚いた

怡土城跡というところへ行って、巨大な土塁に上ってみて、「こりゃなんだ」と思った。「元寇防塁」などと比べても話にならんぐらい大きい。もちろん万里の長城とは、比べるべくもない大きさではある。

水城も怡土城の土塁も、誰も教えてはくれなかった。

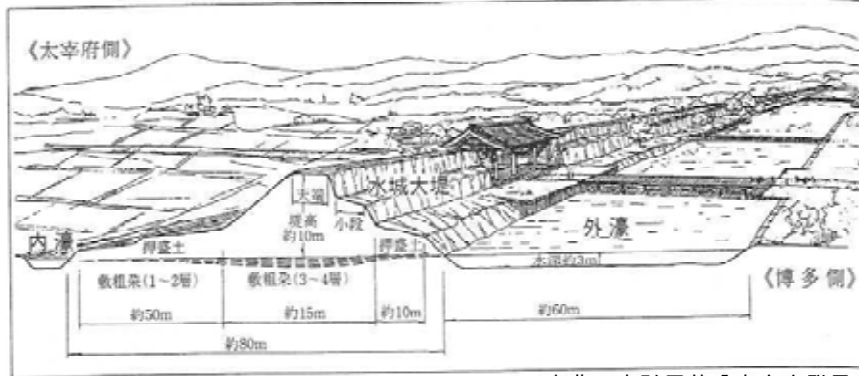
大和の飛鳥で、石舞台古墳や酒船石などを見ても感動するが、水城や怡土城の土塁にはダイナミックな戦の気配が感じられる。それも、元寇防塁などと比べるべくもない大きさである。7～8世紀に、ここに住んでいた人たちが、外部からの侵攻に対してこれほどの“備え”をしなければならぬ国際情勢とは、どんな状態だったのか。その



水城の最上部



怡土城の土塁の最上部



出典：森弘子著「太宰府発見」

水城：福岡市から、九州自動車道を通り南に走ると西側に大きな帯状の森の連なりがある。7世紀中頃、「大宰府」を防衛するために築かれた防塁。幅約80m、高さ約10m余、長さ約1.2km。太宰府を取り巻く周辺市町に伸びており、昭和13年に国の特別史跡に指定されている。

頃の人たちは、何を食べてどんな暮らしをしながら、何年もかけて巨大な防塁を築いたのか。

防塁は表面だけ見ると土塁ではあるが、開削されているところには石も見える。

人口も元寇防塁の時代と比べて、遙かに少なかったに違いない。暮らしのゆとりも少なかったに違いない。その時代に、何人の人がこの工事に加わったのだろう。国際的な治世学上の位置は、今も昔も変わりはないかも知れない。

確か十年ぐらい前のことだと思うが、水城を気にしていたら、太宰府市の住宅団地の角のところからの道を上って、大野城跡に連れて行っていただいた。山の上にも土塁がずっと続いていた。

“すごい”の一語につきた。

観光の、最も重要な要素は、史跡と遺跡である

観光の要素は、次の三つがポイントになると思う。

史跡・遺跡をたずねて、その地域の土地柄の元を探る。

たべものや市場で、その土地の暮らしと味覚を味わう。その土地の日常を知り、自分の土地との違いを見ながら、土地柄と文化の違いを感じる。

風景。確かに、観光と言うぐらいであり、極めて重要な要素であるが、前二者と少し違う。風景は惹きつける要素として極めて大きいがりピートの要素では ~ の役割が大きいように思う。

九州は、気候や風景なども豊かではあるが、史跡や遺跡、食べ物も豊富である。出来れば、水城が築かれた頃の食事についても調べ、食べてみたいものである。こんな楽しみと、史跡調べが、福岡都市圏の人たちのレクリエーションになり、あるいは日本各地の人たちの興味を引くことになればいいと思っている。（いとりのりさだよし）

【提案内容】

太宰府をとりまく古代の巨大な防塁遺跡の歴史学習、文化交流活動の計画調査

応募団体名：協同組合地域づくり九州

推薦団体：福岡県太宰府市

対象地域：福岡県太宰府市水城（みずき）遺跡が残る地域

テーマ

水城と太宰府との関わりを学ぶ研究会（水城の実体と現状 水城が築かれた頃の奴国の歴史 水城を通して見た当時の土木技術 水城が築かれた頃の国際状況 水城を歩く会 上空から水城及び奴国一帯を見る会 = 会員を募集し、セスナをチャーターして見てまわる）を行う。巨大な歴史遺産を活用し、知的活動・健康活動の場を市民に提供し、豊かな歴史、文化遺産を生活の中で感じ取れる地域づくりを行う。

課題

- 1)水城に関わる歴史は、市民や福岡都市圏住民にはそれほど知られておらず、太宰府を中心とする市民及び福岡都市圏住民に広報する必要がある。
- 2)水城は元寇防塁よりも規模が大きく、歴史資産として貴重である。したがって、福岡都市圏の住民への広報だけでなく、関東・関西などの全国や九州の各地の人々に向けても広報する必要がある。

調査方法

水城の歴史学習、文化交流活動の実施

第1回「水城の現状と実体を知る」

・講師によるセミナー、参加者全員で協議を行う。

第2回「水城と奴国一帯を空から見る会」

・セスナに搭乗後、水城、奴国等について全員討議を行う。

第3回「水城が築かれた頃の歴史を学ぶ」

・講師によるセミナー、参加者による討議を行う。

第4回「水城の土木技術」

・講師によるセミナー、古代の科学技術について、参加者全員で討議を行う。

第5回「水城を歩く会」

・水城周辺を歩き、古代食、古代の飲み物などを体験する。

沿道の資料看板整備に向けての検討

水城の学習ビデオ作成のための検討

先導性のアピール

- ・知的活動あるいは健康活動の場の提供は、当面は太宰府市を中心としながら、福岡都市圏200万人に対しても広報活動を行い、都市圏一帯に広げていく。
- ・歴史遺産を活用した、北部九州のアイデンティティづくりと都市住民の歴史散策、日常

的レクリエーションの場、知的学び場を市民に供する。

期待される効果

- ・将来的には、今年度オープンする九州国立博物館、太宰府の一環である大野城、基肄城などを含めた活動を行うことで、九州北部の観光としての魅力が広域的に高まる。さらに全国への広報活動を行い、関東・関西からの観光客を獲得することで、九州北部の観光拠点の形成を図っていく。
- ・巨大な歴史遺産が広まり、全国各地の人が訪れることで、地域の人たちに誇りをもたらすことができる。
- ・地域の小中学生に対する水城の学習活動を通して、福岡都市圏住民の歴史への関心をよびおこすことができる。

セスナに乗って上空から水城をながめました

雪丸 久徳

初めての空中散歩

第2回セミナー「上空から水城を見る会」に向けて、セスナで太宰府水城と福岡市近辺上空をとりあえず試しに飛んでみた。

今回は、佐賀有明空港から筑後平野を北上し、基肄城跡、太宰府水城跡、福岡市西区上空をぬけて博多湾に至り、帰りに吉野ヶ里遺跡上空を回るというコースだった。本番では、福岡空港離発着で水城とその周辺（基肄城、大野城など）を見て回る、15～20分程度のコースを考えているが、今

回は試乗ということで、時間にすると50分、金額からみても10万円を超える贅沢なコースとなった。

フライトは絶好の天気恵まれた8月10日、所々で入道雲が見られる夏日。今回は所員5名が試乗したが、糸乗以外は皆セスナに乗るのは初めてだった。

コックピットの様子を生で見れる

セスナに乗ると離陸するまでの間に、エンジンの調子をチェックしたり、管制塔とのやりとりを見ることができる。コックピットの様子は日頃テレビが写真でしか見たことがないので、それが生で見ただけでもうきうきした。ただ、私は初めてのセスナ飛行だったし、操縦士の方が思った以上に若かったので、正直不安だった。

セスナは6人乗りだったので、副操縦士席に一人、その後ろに2名、またその後ろに2名の配置



今回のフライトコース



筑後川の昇開橋も見えた



操縦席の装置

で座った。副操縦士の席は、色々なスイッチやパネルが目前にあり、飛びたつ前から楽しめる席だと思った。私は残念ながら操縦士の後ろの席で丁度翼の上なので、真下は見れないが、それでも視界は悪くはなかった。眺めが良いのは一番後ろの席で、上空からの写真を撮るなら最も良い席である。

景色は最高です。ただ暑さも最高です。

離陸後、私の抱いていた不安はいつのまにか消え、眺めの良さに感動しながら窓から見える景色に夢中になっていた。多少機体が揺れたりするがあまり気にならない程度で安心して遊覧飛行を楽しむことができた。ただ、セスナ内は、エアコンはあるものの外気の影響でほとんど効かず、しばらく乗ると汗びしょりになった（冷や汗も少し混ざっていたかも知れない）。

佐賀有明空港から基肄城跡を見て、水城上空までは十数分で到着。水城は、福岡平野と筑紫平野をつなぐ、平野部でも最も狭くなったところにある。直線状の緑の連なりなので、空からでもすぐにわかった。操縦士に言って、右に大きく旋回してもらったり、周辺上空を何度も飛んでもらったりして、いろいろな場所から水城を見ることができた。

セスナで上空から見まわすと、水城のスケールの大きさを感ずることができるし、周辺の地形との位置関係など、地図や地上では感じられないことを体感することができた。

めったにない経験なので人に自慢できます

セスナは高度600mくらいを飛行するので、自分の住んでいるまちの建物など確認できる高さであるから、これまで行った場所を探したりもできるし、後にある場所に行ったときに「ここ、この前



機内の様子。2人席が3列になっている。セスナから見えた」などということもできる。

自分が生活しているまちの上空をこんなに近くセスナで飛んでみるのは、一生に一度あるかないかの貴重な経験だし、とてもリッチな気分を味わえるので自慢にもなる。試乗ということで、デジカメで上空から写真を撮るために液晶画面を見て、地図を見ては、窓にへばりつき、下ばかり眺めているうちに、気分が悪くなったりもしたが、乗り終えて本当に満足行く内容だった。

本番は9月末か10月の上旬を予定しており、参加者を募ります。あまり経験できないことなので、一度乗ってみることをお勧めします。高いところが苦手な人や飛行機が嫌いな人でも十分楽しめる(?)と思うので、興味がある方は一緒に空中散歩を楽しみましょう。（ゆきまる ひさのり）

第1回市街化調整区域・地域づくり研究会報告

福岡都市圏の市街化調整区域では
どんな問題が起こっているか
本田 正明

福岡都市圏での「市街化調整区域・地域づくり研究会」発足

市街化調整区域（以下調整区域）の地域づくりは、今後の都市計画の大きな問題になるのではないかという思いから、当社では調整区域の土地利用を考える地域づくりセミナーを開催したり、田園楽住の会の活動を行ったりしている（よかネット68号参照）。

そうした中、調整区域を飛び越えた都市計画区域外で宅地開発が進むという問題を抱えている古賀市土地利用対策室の中野氏から、「福岡都市圏

での市街化調整区域・地域づくりについて、調整区域の問題の共有や土地利用手法などをいっしょに考えたらどうだろう。」と提案があり、当社が会の世話役となって福岡都市圏の市町村や福岡県都市計画課、また都市計画家協会の九州メンバーなどに呼びかけて、研究会を立ち上げることになった。

6月29日にその初めての会合を行い、28人もの参加があった。

福岡都市圏の市町村が抱える土地利用の問題

研究会のねらいとしては、単なる土地利用の勉強にとどまらず、調整区域内の集落の維持、農地と宅地との土地利用のあり方、道路等の公共施設整備のあり方などの問題について話し合いながら、都市計画法や農地法などの法制度をどのように使いこなすのか、また、具体的な事業手法として調整区域内の地区計画についても研究を重ねていきたいと考えている。

今回は第1回目ということで、福岡都市圏周辺の市町村が抱える調整区域や都市計画全体の問題について話したのだが、調整区域への住宅開発圧力が依然として高いといった問題から産業廃棄物の問題、調整区域内集落の児童の減少といった問題など、思っていた以上に地域によって問題が異なり、内容も多岐に及んでいた。

各市町の報告内容を抜粋して紹介したい。

都市計画区域外を調整区域に編入した新宮町

(総人口22千人、市街化区域21千人、調整区域1千人) H12年国勢調査の人口をベースにした値である。100人以下を四捨五入しているため合計の不一致がある。

- ・以前、都市計画区域外の山間部があったのだが、交通の利便性が良いので、産業廃棄物の工場などができ、そのまわりの農業集落に影響を与えていた。地元からは産廃は規制してほしいが、調整区域にはしてほしくない、調整区域への編入には反対を受けていた。最後は地元の自然を守ろうという方向で住民の合意が得られたので、平成10年2月に全域が都市計画区域になっている。
- ・産廃関係の問題は、完全には解決していないが、新たな案件はなく、調整区域に関する土地利用や調整区域になったことに対する苦情も出ていない。

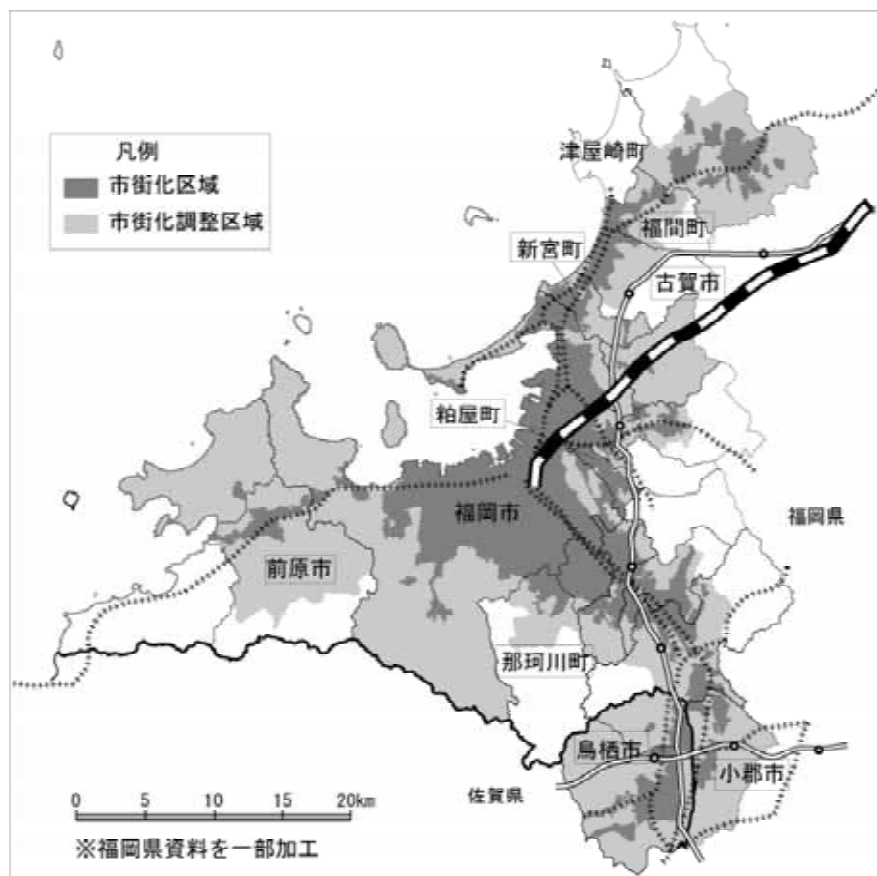
- ・調整区域への住宅の開発圧力はまだまだ強く、開発の要望も挙がっているが、ただ開発を安易に考えるのではなく、自然環境を守ろうという動きもボランティアやコミュニティーを中心に行われている。

線引き区域と非線引き区域の合併問題を抱えている福岡町

(総人口41千人、市街化区36千人、調整区3千人、区域外2千人)

- ・山間部に都市計画区域外を残している。行政としてはコントロールするために全域を都市計画区域に入れるべきだと思っているが、住民サイドからの活発な都市計画区域編入の議論は上がっていない。
- ・調整区域は、国道3号線とJR鹿児島本線の駅が2つあるなどインフラが充実しており、農村集落も通勤圏になっている。兼業農家や、分家住宅も多い。
- ・市街化区域内にも古くて衰退している団地があり、それと比べて調整区域が特に困っている状況ではない。
- ・合併によって、隣の津屋崎町といっしょに福津市として来年1月24日にスタートするが、大きな問題としては、福岡町は線引き、津屋崎町は非線引きということがある。当分は福岡都市計画と津屋崎都市計画という二つの都市計画がひとつの市にある状況が続くのではないかと中山間地での児童や生徒が減っている前原市(総人口64千人、市街化区45千人、調整区19千人、区域外300人)
- ・市街化区域に隣接した地域において、約4haの区画整理を計画しており、住民との合意形成を図っている。また、九州大学が前原市北側に移転してくるため人口増加が予測され、その地区においても区画整理を行う予定である。
- ・調整区域は約140km²あるが、交通の利便性が高く、福岡市に隣接しているため、調整区域自体の人口が顕著に減っているということはない。ただ、中山間地域の校区の生徒、児童の減少で集落の衰退が危ぶまれている。中山間地域の活性化を図るために、調整区域の地区計画制度を活用して、活性化を図れないのかということでガイドラインをつくった。

人口増加が落ち着いた那珂川町



福岡都市圏の市街化区域等の状況
左記市町(かこみ文字)の方に調整区域の問題等を報告していただいた。

(総人口46千人、市街化区38千人、調整区5千人、区域外3千人)

- ・昭和45年に線引きをしており、人口増加のほとんどが市街化区域内におけるものである。市街化調整区域、都市計画区域外ではそれほど変化していない。現在、町全体で年間500人ほど人口が増えているが、マンションなどの入居者が多いため、戸建ての開発ニーズは落ちてしていると判断している。落ち着いた状態で農業も営まれており、都市計画区域外に乱開発が進んだという印象はほとんどない。

- ・ただ、山間部に産廃の問題があることと、既存宅地制度が廃止になったことを既存宅地を持っている人にどのように通知すればいいかということで悩んでいる。

調整区域の児童が減少している小郡市

(人口55千人、市街化区37千人、調整区17千人)

- ・市の総面積4,550haのうち、調整区域が3,794ha(83%)である。宝満川の左岸が調整区域であり、その7割が農地、かつ圃場整備も入っているため、扱える状況ではないが、県から大規模既存集落地区の指定を受けた地区が2カ所ある。
- ・調整区域において児童が減っており、小学校を

統合しないといけない状況になってきている。

- ・住民からの要望は、「住宅をつくってほしい、大規模開発してほしい」というものではなく、「せめて小学校が成り立つぐらいの政策をして欲しい」といったものであるが、人口は一校区しか伸びておらず、本来の中心地の校区でも減少してきている。

調整区域の農用地に九州新幹線の整備問題を抱える鳥栖市

(人口61千人、市街化区52千人、調整区9千人)

- ・調整区域の大きな問題として、九州新幹線の整備において、長崎本線と交差する部分に新駅をつくる構想であるが、対象となっている土地が農振農用地であるために、整備や開発などの手がつけられない状況であることが挙げられる。その東側に旧集落が20戸ほどあり、この集落をそのまま残すか、区画整理、地区計画でやるのかなどを考える必要がある。

- ・もう一つ大きな問題として、小郡市との県境にある九州自動車道の鳥栖ジャンクションの南に、70ha弱の流通業務団地が建築認可を得て、都市計画決定された。平成19年に売り出す予定であり、これにともない幹線道路の整備も重要にな

ってくる。国道3号が基山町までは拡幅が終わっている。久留米側も開発の計画が終わっているが、鳥栖市だけが現道拡幅なのか、調整区域の中にバイパスを通すのか決まっていない。

- ・調整区域の土地利用については、鳥栖市は特定行政庁ではないので、佐賀県の条例に従わなければならない。ただ、条例が定まっていないので、方針が決まらない。ほとんどの集落が50戸以上連たんしているの、保全するのか、開発するのか、その選択が迫られている。

宅地や農振農用地の混在している粕屋町

(人口35千人、市街化区32千人、調整区2千人)

- ・福岡市に近いこともあり、調整区域は資材置き場や大型運送用車両の駐車場などに使われ虫食い状態のような土地利用がされている。
- ・区画整理をしようとしても、宅地や農振農用地が混在しており、地価の差が激しいなどの問題があり、なかなか厳しい状態である。
- ・九州大学の農学部演習林があるが、大学の移転に伴って出ていくため、移転後に乱開発されないような対策を考える必要がある。

調整区域を越えた都市計画区域外で開発が進んでいる古賀市

(人口55千人、市街化区41千人、調整区5千人、区域外10千人)

- ・古賀市は42.1km²あり、そのうち市街化区域は800haで全体の約20%である。都市計画区域外が半分であり、その土地利用をどうするかが問題になっている。
- ・3年前、国土利用計画を作成した際の大きな争点として、計画的な土地利用のために全域を調整区域にすることになり、今年度から作業に入っている。しかし、都市計画区域外では、農地でも農用地を外して転用すれば坪5万円になるが、調整区域だと10分の1以下の5千円くらいになるということで、地元からの反発がある。
- ・古賀市では、都市計画区域外に個別の住宅開発がすすんでいる。20年間スプロールが進行したために、都市計画区域外の人口が3.5倍に膨れ上がっており、工場、倉庫、流通系が混在している。

集落の維持を考えた地域づくりのビジョンを考える必要があるのではないかと

私は、市街化区域の都市部よりも早く人口減少

(特に青壮年)がおとずれると思われる調整区域において、集落などの地域システム(区や婦人会などの自治組織)をどのように維持していくのか、ということが一番気になっている。研究会でも、集落の子供たちの減少を気にしている市町があり、今後大きな問題になるという思いを強くした。

地域の清掃活動などを自治組織に頼っているところは多く、人口減少や地方交付税の減少を考えると、農村部の集落をすみずみまで行政サービスによって支えていくことは難しい。地域の公的なサービスは、ある程度は地域住民にサポートしてもらう必要があると思う。そのためには前段階として、集落を維持するために必要な人口規模を把握したり、実現のための方策を考えたりする必要があると思う。

調整区域における地域づくりは、そうした地域のビジョンをはっきりした上で、どのように都市計画法を使っていくかが重要になってくると思う。研究会の中でも、そういう地域づくりのビジョンについても議論も行えるといいと思った。

この研究会は、1~2ヶ月に1回を目途に集まり、研究を重ねていく予定です。ご興味のある方、参加を希望される方はご一報いただければ、案内をお送りします。(ほんだ まさあき)

皆様から寄せられた「よかネット」へのご意見、近況などの紹介

NO.70号に同封していたハガキに、様々な御意見、近況などが寄せられました。その一部を紹介させていただきます。(順不同、敬称略)

木喰仏の話、大変興味深く拝見しました。関連HPも見ましたが、すべての方々が、感動されている仏様、私も一度現地で拝みたいと思います。(さいたま市 館 逸志)

私の九州度の自己採点(知らない-1、知っている0、体験あり+1)は、なんと-13点でおはずかしい次第でしたが、これから点数アップを計りますのでご寛恕を。最近、自転車生活をしようとして疋田智さんの本を読んでいたら、共用自転車システムを否定しておられたので、このことについてもうちょっと調べたいと思っています。

(横浜市 伊達 美德)

「エツ」の記事、面白く読ませて戴きました。その筋によれば同じ筑後川でも城島町で捕れる「エツ」が最も脂がのって美味だそうです。料理店（欧風も含め）もいくつかありますので是非お試し下さい。筑後川流域では、弘法大師と「エツ」の伝説は有名ですが、「エツ」は弘法大師が留学していた「齊」の国に因み鱒と表記するそうです。

（福岡県城島町 石井 喜代己）
三位一体が改革が進む中、地方公共団体の財政は厳しさを増しております。当市でも、総合計画、行革推進計画、財政見通しを三位一体で策定しつつありますが、厳しさだけではなく、将来に向かって希望が見出せるように、市民共働で特色あるまちづくりを進める必要を感じております。（岐阜県羽島市 大竹 亮）
町村合併を間近にひかえ、駆け込みでのいろいろな動きがでています。「ふるさと創生」の1億円を使わずにいた自治体が、用途の名案が浮かばず結局各地区各戸に分けてしまったり、少子化の中で学校を改築したり、「浮き足立つ」とはこのことかと思えます。

（熊本県久木野村 高島 一純）
こちらで行ってきました「ウィークエンド百姓学校」は開設以来5年、新たに分校を2ヶ所で開設準備中です。また開始6年となった広葉樹植林活動は延べ13ヘクタールとなりさらに拡大中であります。悩みのタネは「事業化」の困難性ですが、ここにメドをつけることが目下の課題でしょう。「人と自然」を基底とした活動の可能性は無限であります。奮闘を祈念します。

（名古屋市 小早川 喬）
7月10日に福岡市東区箱崎の通称「きんしゃい通り」商店街に「都会と田舎をつなぐ いいなかプラザ」を開設しました。がんばる“田舎”の情報と産品を展示するコミュニティスペースを備え、農家民泊などグリーンツーリズムも企画します。お立ち寄り下さい。

TEL092-643-5250 （福岡市 今里 滋）
「道の駅」豊前おこしかけも開業5年目に入りました。これまで順調に推移していますが、これからが、正念場だと思っています。本年6/19「お米会員（現在3,800名の会員数）と生産者との交流会を行い大変好評でした。誰が何処で

つくっているのか、美しい環境とかつくる苦労も知ってもらいました。秋には彼岸花の開く棚田も見てもらいたいと思っています。

（福岡県豊前市 白石道雄）
昨年、NPO法人「国際下宿屋」設立の記事を掲載して頂きましたが、先日、第2回目の総会を開きました。この間（1年間）の報告をします。現状、民間のアパートを3件管理。今年の4月から、県の独身寮（28室）を借り受け管理。留学生34名です。県の物件は半分空いております。経営的には赤字です。平均家賃は8,000～10,000円程度です。問題点は沢山あり、この欄には無理です。家賃の安さだけでは、満室にはなりません。留学生にとって何が魅力的かは検討しなければいけない様です。未だ解決しておりません。（佐賀県牛津町 鳥井 大敬）
福岡市近郊観光資源について二題。先日TVクイズでシンガポールの新しい今のマーライオンとNY自由の女神のトーチがほぼ同サイズと知りましたが、その自由の女神、かつて明石大橋畔への誘致計画もありました。お台場には大元のフランスから少し小さいのが来ましたが、リバティー島の世界最大と称する女神像より5m程しか変わらないのが篠栗のねぼとけさん、と説明にあり、パブルのタワーのような牛久大仏は別として、南蔵院仏の大きさには圧倒されました。今一つは昨年修復になった九州最古級の民家、新宮の千年家です。修復の出来もあってか見事な古建築でしたが、最澄帰国上陸以来ということは千年家よりもう二百年程長く守り続けられてきた竈の法燈、比叡山の親火に感銘しました。大師を助けた獵師の直系44代目の御当主夫妻のお話をうかがいながら来（訪）福の楽しみを新たにされた次第です。

（東京都豊島区 佐藤 正憲）
最近地元の小学校6年生に地域の歴史について話をする機会がありました。子供達に話をする場合、やはり自分の歴史観をはっきりしておかないと興味をもってもらえません。劇画時代の子供にはポイントをしばってパンチのある話をする事が大切な様でした。子供達は約70分一生懸命に聞いてくれました。

（神戸市 吉田 昭彦）

福岡市の中心、天神のど真ん中にある
 デイサービス「天神オアシスクラブ」
 愛甲 美帆

当社の知人の方から福岡市の中心商業地の天神にある商業ビルで、痴呆のリハビリを兼ねたデイサービスを開所している施設があるという情報をいただいた。天神という大都市の中心地にデイサービスがあるという驚きと、どのようなサービスをされているのかにとっても興味があったので取材に行った。

訪ねてみると、そこはまさしくオフィスフロア

そのビルは、下層階は飲食店や文房具、本屋といった店舗、上層階は貸し会議室やクリニック等が入っている。

「お年寄りにとっては昔から馴染みのある旧岩田屋の目の前の福岡ビル（通称：福ビル）。天神でもとにかくここなら来られる。そしてここはラッキー7の7階です。」と取材当日管理者の中島七海さんは柔らかな笑顔で出迎えてくださった。

デイサービスと小さな表示のついた「天神オアシスクラブ」という看板がかかった入口から中に入ると、よくある折り紙の飾りなどはなく、椅子も喫茶店にあるような椅子。福祉施設というよりカルチャーセンターの雰囲気であった。「折り紙の工作をかわいいねという人もいるのですが、男性の方はそれがあるだけで帰ると言われるので、ここでは飾っていないんですよ」ということだった。

家に閉じこもりの状態を防ぐ。デイサービスに通うきっかけづくり

天神オアシスクラブは開設4年目。今年の4月に天神デイケアクリニックからデイサービスオアシスクラブに変わった。運営母体は鞍手郡で病院の他にケアハウスやグループホームを展開している有吉病院である。きっかけは福岡大学病院神経内科・健康管理科の山田達夫教授が外来患者を通して感じたことであった。それは、若年性痴呆の人、軽い痴呆の症状が出た人、子どもみたいなデイサービスには行きたくないという人が行く場がない。デイサービスに行きたがらず、一日中家にとじこもりで痴呆の症状が悪化するのをなんとかできないかという思いであった。そこで、看護師、

福祉レクワーカーなどの資格を持つ中島さんに白羽の矢があたった。「仕事に行く」「買い物に行く」という感覚で来られる天神でカルチャーセンターのような内容のデイサービスを、という要望のもと、中島さんは「その道の一流の先生であれば、その人がもっているいいものを引き出してくれるのではないかと考え、このデイサービス開設の思いを説明し、講師依頼に奔走された。開設当初は音楽療法とケアピクスの2種類からのスタートだった。

「ここは家の外に出るきっかけづくりをするだけ」と中島さんは言われた。本来ならば送迎や入浴サービスのある近くのデイサービスに何回も通う方が金銭的にも負担が軽い。「デイサービスには行きたくない」と家に閉じこもってしまい、本人も家族も大変な思いをしている。ここに来ることで、とにかく外に出て、本人が自信を取り戻せる。また、家族も介護の仕方などを知って、安心できたら近くのデイサービスを検討したり、痴呆が進み活動が難しくなれば他のデイサービスやケアハウス、グループホームを検討するなど、第三者も入り、本人の納得や家族の状況に合わせて考えるきっかけをつくるということだ。

送迎、入浴は無し。多彩な芸術メニューと選べる食事

利用者は84名（男性28名、女性56名）で、うち要支援：12名、要介護1：46名、要介護2：16名、要介護3：9名、要介護4：1名。1日の利用者は30～35名である。他のデイサービスよりも男性の比率が高いようだ。

大半は市内の方であるが、直方市、春日市、太宰府市など、バスや電車で1時間以上かかるとこオアシスクラブの概要

利用日：月～金、利用時間：9:30～16:30

芸術レクリエーションの内容	
月	陶芸
火	ケアピクス・音楽療法
水	はがき絵orケアピクス
木	生活の書or造形教室
金	音楽サロンinオアシス
土	生活の書orケアピクス

食事は配食サービス利用。持参弁当可。出前可。時には外食することもある。設備がないため、入浴サービス、送迎サービスは行っていない。



デイサービスの入口

るからも通って来られている。中には山口県、熊本県など県外から月1回通う人や、子どもの家に1週間滞在する間通う人など幅広い。自宅までの送迎サービスはないが、バスの乗り場までスタッフが同行したり、乗り合いタクシーで天神まで出てきて、その運転手さんと連絡を取り合うなどのサポートはしている。利用者の中には、家の前に“デイサービス”のロゴが入った車が止まるのは恥ずかしいのでタクシーがいいという人もいるそうだ。

座ってもできる有酸素運動ケアピクス

ぜひ、このケアピクスを見て欲しい、と取材日はケアピクスの先生が来られる火曜日であった。ケアピクスというのは、エアロビックダンスのインストラクターである滝口晶恵先生が考案した高齢者、低体力者向けに改良したエアロビックダンスである。エアロビックダンスのリズムの1/2のペースで体を動かす。インストラクター養成講座も開かれている。職員の方は全員資格を持っているので、先生の日以外は職員が日替わりでインストラクターをする。ほんの少し私も一緒に動かしてみたが、有酸素運動ということで、座っていてもかなりの運動量であった。ちなみに人気のあるメニューはケアピクスと音楽サロン、陶芸で、あとひとつ何かを選ぶとなるとなじみがあるということで書道が多いそうだ。

天神という立地で、楽しみもいろいろ

7階なので窓は開けないが、落ち着かない人は、ビルの屋上の芝生ガーデン（夜はピアガーデンになる）や公園に行ったり、天神という立地柄、ウィンドウショッピングやデパートのギャラリー鑑賞、あるいは山笠シーズンの飾り山、クリスマスイルミネーションと季節の雰囲気も楽しめる。



体操時はマットを敷く

楽しみが多い反面、気をつけることも多い。同フロアの入居者とは良好な関係であるが、デイサービスの1階下はこのビル最大の会議室となっており、騒音には気を使っている。

トイレは室内と共用部のトイレを使用している。このビルは地下街に通じており、エレベータに乗って地下に降りてしまうと出口がたくさんあり、大変なことになるので、職員同士のアイコンタクトで、常に廊下に何人に出たなど把握しているそうだ。

1年前の新聞記事を握りしめやっとの思いで電話してきた家族も

話せばきりがないほどエピソードがあると言われた。特に印象的だったのは、新聞で紹介された記事を1年間ずっと持ち続け、やっと電話してきた家族がおられたことだった。

「デイサービスから帰って夜から朝にかけての介護が大変なんです。『24時間対応しますよ。何かあったらかけてね』と私の携帯番号を教えるだけで家族は安心されます。」と中島さんは言われた。この話は、以前ケアマネージャーの方からも聞いたことがある。

一時休止となっていた利用者の家族会も再開。介護をしている娘さん同士、お嫁さん同士など同じ立場の人で悩みを相談しあう場となっているそうだ。本人の心が満たされて落ち着くと同時に、家族もすぐに相談できる所があるという安心感が重要なのだと改めて感じた。

早期診断が大事。デイサービス利用のきっかけとしているんな選択肢があればいい

今回取材した「天神」「学ぶ」がキーワードのデイサービスは、デイサービスを利用するきっかけづくりに重点がおかれていた。山田教授は、

慣れた環境の中では痴呆症状が見つかりにくい
年寄りであれば誰にでもあると思いがち
家族が隠そうとしてしまう

以上の3点が要因となって、介護困難になってから病院を受診して、施設入所になってしまうという状況が多いことを指摘されており、早期診断の重要性を訴えている。

福岡県平成14年度介護保険年報内によると、県内のデイサービスは、平成15年4月1日現在512箇所、介護保険制度が施行された平成12年の253箇所から約2倍に増えている。以前他の調査で「最近民家をウリにしたデイサービスが増えているので、事業所としてはサービスで差別化を図らないといけない」という声を聞いた。

施行後3年がたち、数が増える段階からサービスの内容を充実させていく段階にきていると思う。サービスを利用するきっかけづくりという点、あるいは10年後団塊の世代が高齢期を迎えることを考えても、サービス内容の選択肢が広がることは利用者の安心につながり、今後ますます進んでいくのではないかと思う。（あいこう みほ）

中国東北地域 見聞録

～老人ホーム、観光、マンション事情

よもやま話～
山田 龍雄

8月1日に久留米大学経済学部・中国社会科学学院人口与労働研究所等の主催による社会国際シンポジウムが吉林省長春市で開催された。このシンポジウムのオプション企画として7月31日から8月5日の6日間にわたり、中国東北三省の主要都市である吉林市、長春市、瀋陽市、大連市を見て回った。

私は、2年前に内モンゴルに行った帰りに1日だけ北京に立ち寄り、その発展状況を垣間見たのであるが、今回、各都市での高層ビルやマンションの建設ラッシュの状況を見ると、日本のバブルの二の舞ではないのか、果たして、この発展がどこまで続くのか心配せざるを得ないといった感じである。

今回の6日間の視察の中で少し中国事情が伝わる話をまとめてみた。

運営主体が異なる2つの老人ホームを見る



今回訪問した主要都市の位置

老人ホームは、楽しみにしていた視察先であった。

実態は少々誤差はあるだろうが、公式の統計データ（中国消費統計データ：国家统计局発表）によると、2001年の中国の65歳以上の高齢化率は約7%とそれほど高くない（日本の2004年高齢化率：17.3%）。人口構成から見ると一人っ子政策以前の年代である40～49歳代の人口が1億7千万人（構成比13%）、30～39歳代の人口が2億4千万人（約20%）と飛びぬけて高い。したがって中国では20～30年後に本格的な高齢社会を迎えると言われている。また、一方で中国では都市部への戸籍移住を部分的に認可してきているらしく、今後、田舎に残された高齢者は増えてくるであろうし、地縁、血縁に頼って生きていくといったこともできにくくなってくと予想される。このような背景を考えると、日本と同様に中国でも高齢者施設需要は益々高まっていくのではないと思われる。

非営利団体運営の瀋陽市の老人ホーム

瀋陽市の老人ホームは、学校の寄宿舎を改造したもので、運営は地域の非営利団体が行っている。私たち視察団が施設に到着すると、既に玄関前には10数人の入居者及び施設関係者の方が立ち並び、熱烈歓迎の雰囲気を出迎えていただいた。

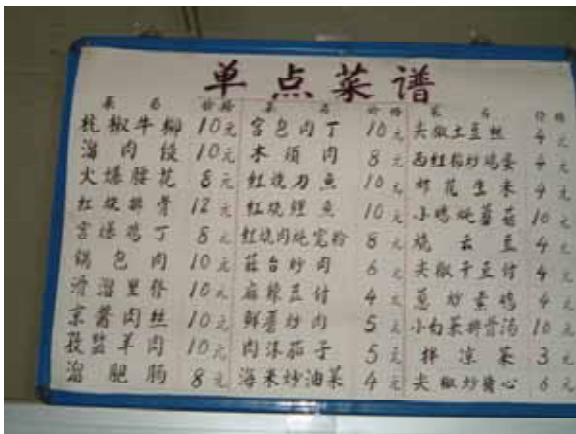
施設に入ると、すぐ2階の広めの部屋に通され、ここで施設概要の説明と歓迎会が行われた。施設

の概要は下記のとおりである。

- ・入居者の平均年齢は84歳とかなり年輩の高齢者が多いようだ。
- ・入居料は月当たり南側居室400元（約6,000円）、北側居室350元（約5,200円）で、これに食事代250元（3,800円）がプラスされると概ね月当たり9,000～10,000円となる。
- ・中国の平均的な年金は、500～600元（7,500円～9,000円）と言われていることから、それほど低額な入居費とはいえず、生活費で不足する分は子供の仕送りで補っているらしい。
- ・定員120名に対して入居者80名。入居率は7割弱。入居者の中には元医師、大学教授、看護師、書道家などおり、多士済々のようだ。
- ・瀋陽市には、非営利団体と社会福祉協議会運営の老人ホームを含めて19ヶ所あるそうだが、どこの施設もまだ空きがあるそうで、待機者も少ないとのこと。これは、やはり中国の平均的な年金や子供の収入からみて、余裕をもって入居できる料金には少し隔たりがあるのかも知れない。
- ・入居している人は比較的元気な人が入居してい



玄関前で迎えていただいた熱烈歓迎



充実したおかずのメニュー

るようだが、寝たきりになったり、長期の医療行為が必要となった場合には、近くにある病院に移るそうだ。したがって、終身利用の施設ではない。

- ・食事は朝、昼、晩とも4～5つの定食メニューから選択が可能であり、これとは別に20数種類のメニューから好きなものを選ぶことができ、なかなかの充実ぶりである。

一通りの説明と質疑応答が終わると、二胡が得意な入居者の演奏、元鍛冶屋さんで書道家といわれる方から記念の書の実演があった。もう少し時間があれば、詳しく聞きたいこともあったが、スケジュール上、次の視察地へ移動した。

大連市運営のモデル老人ホーム

日本で“モデル”ということ、一般的にどこでも適用可能なものという意味というより、どうも過剰設計、過剰設備となってしまう、少々贅沢な施設となるケースが多い。大連市のモデル老人ホームも、全く、日本と同様に過剰設備の施設であった。

この施設では、リハビリ室、医療室（看護師常勤）、球技指導室、学習室等とあり、とにかく施設・設備内容は充実していた。103室で200床あるが、中には窓に内障子を付け、ベッドも畳としている日本人向けの部屋もあり、是非日本人にも入居していただきたいとのことであった。総入居費は入居料、介護費、食費を合わせて約1,500元（約2万2千円）と超高額であり、元身分が高く高額年金が支給される人が、高額収入の子供からの支援を受ける人しか入居できない施設であるようだ。施設の内容からみるとモデルとなるのかもしれないが、施設建設費や運営費を考えると、このような施設がいくつも建てられるとは思えず、



外観も立派な大連市の老人ホーム（パンフレットより）



遊覧船からダムをみる

やはり瀋陽市でみたような、少しでも低額で運営できる施設をもっと検討する必要があると思った。

旧満州国統治時代に建設した人工湖が、いまや東北地方の一大観光地

長春市から延々と見渡す限りのトウモロコシ畑を眺めながら、東側へ向かって1時間半程度車を走らせたところに吉林省第2の都市である吉林市がある。私たちは吉林市の市街地から、さらに20～30分車を走らせ、吉林省最大の水瓶となっている松花湖（しょうかこ）に行った。

松花湖は、北朝鮮との国境にある長白山脈を源とした松花江を堰き止めてできた人造湖である。しかも、堰き止めたダムは豊満ダムと呼ばれ、日本が旧満州国統治時代に水力発電を主目的として昭和12年から昭和17年の5年の歳月を費やして築造されたものである。

この人造湖はダムから上流約200kmにもおよび、その面積は500km²という広大さである。ちなみに福岡市の市域面積は約340km²であることを考えると、いかに広いかが想像される。まず、湖をみて驚いたのが、大型の遊覧船が2～3隻、20～30人乗りの遊覧船が10数隻浮かんでいた。また、周辺には別荘地らしい建物やホテルなどが見られ、多くの観光客が訪れており、一大観光地となっている。

添乗員の方に、この地がいつごろ観光地化したのかを尋ねると、1980年代以降らしく、文化大革命（1966年～1975年）後の市場開放政策によって、観光業も急速に発展しているようだ。旧満州国統治時代に日本人が創ったダムというインフラが、利水、治水以外に観光として外貨を稼いでいるのは、日本人として複雑な思いを抱かせられる。

ちなみに、中国への2001年の年間入国者数（出



車窓からみえる高層マンション

典：世界銀行「World Development Indicators」12ヶ月以上の滞在者、空港での乗り継ぎ者は除く）は、3,320万人でフランス（7,650万人）、スペイン（4,950万人）、アメリカ（4,550万人）、イタリア（3,910万人）に次いで第5位であり、近年、中国政府は外貨獲得の重要な産業として観光産業を位置づけているらしく、未開発の観光資源を考えると、ここ10年で入国者数が第1位になることも夢ではないかもしれない。

中国のマンション価格は年収の割には高い

視察旅行の最終日は大連市。午前中は予定を変更して旅順、203高地へと向かった。この旅順へ向かう途中、市街地には高層マンションが林立しており、また、建設中のもも10数棟はみられた。また、郊外部に行くと5階建て程度の住棟が立ち並んだ住宅団地がいくつもできている。投資目的で購入している人が多いとも聞かし、果たして全て埋まるのか甚だ疑問である。

添乗員の方に価格を聞くと、市街地の高級マンションは50万円/坪、30坪であれば1,500万円の物件、郊外部では15～16万円/坪、30坪で450～500万円の物件である。しかし、大連市のサラリーマンの平均月収は1万5千円であり、すこしランクの高い年収36万円（3万円/月）の人を対象としても、高級マンションは年収の40倍、郊外部のマンションでも年収の12～14倍近くになってしまう。

日本でも持ち家を購入する適正価格は年収の5倍程度であるといわれているのに、この高額な価格は理解できない。食料費などの生活費が安いので住宅費に多くを回せるのか、購入費は親戚一同でお金を出し合うのか、はたまた長期ローンを組むのかどうか分からない。

これ以上の情報がないため、なんとも致し方ないが、中国の住宅事情に詳しい方がいらっしゃれば、是非、聞いてみたい。(やまだ たつお)

まちあそびをしよう ~福岡・博多~

“御朱印集め”をまちあそびのきっかけに
本田 正明

福岡・博多はまちあそびできる場所なのか。

「福岡・博多は観光地なのか？まちあそびができるような都市の魅力があるのだろうか？」という疑問が所内で出されたことがある。たしかに人は多く集まっているし、旅行誌などもたくさんある。しかし、旅行誌のテーマをみると、とんこつラーメンや屋台、博多どんたく、祇園山笠、天神やキャナルシティのファッションなど、最近できたようなものが多く、無形のもの・楽しむ時期が限られるものが多い。

では定期観光バスはどうなっているのだろうか、とホームページで探してみると、櫛田神社と博多町家をみて、博多湾と福岡タワー、福岡ドームなどを車窓から見学し、市立博物館に行くコース（約3時間半で1900円）が載っているのだが、3時間も消費する割には何か物足りない感じがする。

どうも福岡・博多は飲食・物販では売りものが数多くあるものの、まちあそびなどの都市観光で時間を消費するところがあまりないのではないかと、思ってしまう。しかし、そんなことを言ううちに「福岡には鴻臚館跡や豊臣秀吉がつくった太閤町割が残っている」とか、「自由民権運動の玄洋社の資料館がある」などいろいろ意見をいただいたので、実際に福岡・博多でまちあそびができるかどうか自分で調べてみようと思った次第



各神社の略記(御祭神、御由緒などが書いてある)

である。

まちあそびする楽しみ、歴史を学ぶきっかけとしての“御朱印集め”はいかがか

ただ、鴻臚館や玄洋社などの歴史を楽しむまちあそびをしようと思うと、事前に当時の歴史や社会背景などを頭の中に入れておかなければ、とても楽しむレベルまでは到達できないように思う。

京都などと違って、福岡にある観光資源は断片的なものが多く、風景だけで楽しんだ気になることは難しいし、お芝居見学や博多人形の絵付けなどのように直感的に楽しいと思うことがなかなかない。自分の知っている歴史や体験をフル活用して、頭の中で想像を膨らませることで、やっとおもしろいという感覚が生まれてくる。歴史を楽しむには、対象物以上に周辺の情報（地理的なものも時代的なものも）が必要であり、楽しさも個人によってずいぶん異なってくる。

また歴史に興味を持っていても、どこにまちあそびを楽しめるようなものがあるか教えてくれる人がなかなかいないという問題もある。

そこで私が最近、歴史を楽しむまちあそびとしていいなと思い始めたのが、“御朱印集め”である。観光関係の仕事させてもらっているので、少しでも地域の歴史を学ぼうと、週末に時間があれば近くにあるお寺や神社に足を運んで、歴史や文化についての仕入れをしているのだが、その際に“御朱印”をいただくことで、より地域の歴史を楽しみながら学べるようになった。

御朱印（納経）は寺社をお参りした際に、朱印帖に神社の名前や寺の本尊と参詣の年月日を記入して判（朱印）をもらうのだが、元々は巡礼者が法華経などを写経して、これをお寺などに奉納する際に、納経受取の書付と判をもらっていたもの



東長寺と警固神社の御朱印

だそうである。現在は信仰よりもスタンプ集めにしている人も多いそうで、私も神社にはお正月ぐらいしか縁のない人間だったのだが、このごろは毎週のようにどこかの寺社をお参りしている。御朱印の魅力としては、

参拝した場所の記念になる

手書きなので、寺社ごと担当者ごとによって字や書式の違いを楽しめる

大抵の社寺で、御祭神や略記の書かれた資料をもらえるので、地域の歴史や仏教、神道の勉強になる

御朱印を書いてくれた宮司さんなどと会話するきっかけを持てる

ということになるだろうか。周りからは「還暦を過ぎた人みたい」「20代の趣味じゃない」などと言われるのだが、同世代の友達が結構おもしろそうに眺めたり、どこで朱印帖が買えるのかと具体的に聞いてくる人もいる。福岡・博多だけでも10カ所ほどいただけるので、いいまちあそびになると思うのだが、いかがだろうか。

ちなみに福岡では御朱印の受付場所や料金などを明記しているところはほとんどないが、社務所などに行くと大抵書いてもらえる。料金は“お志として”300円ほど支払うのが礼儀のようである。

(ほんだ まさあき)

所 員 近 況

ルーツ探し(序章) 真田幸村の末裔か？

私は、雪丸(ゆきまる)という珍しい苗字をもつので、その由来に前から興味を持っていた。

私の生まれた鹿児島県根占町は、大隅半島の南側にあるが、もともとは薩摩半島の南側、指宿周辺の苗字だと以前父より聞いていた。後に、指宿市の隣にある頼娃(えい)町に「雪丸」という集落があることを地図で知り、一度は行ってみたいと思っていた。6月末、指宿市に行く機会があったので、そのついでに頼娃町の雪丸集落に行ってきた。

雪丸集落は山裾にあるおよそ50戸くらいの農村集落である。私がそこに着いたのは夕方6時くらいだったと思う。丁度お墓参りに向かうというおばさんに声を掛け、いきさつを話したところ、知っている名前があるのではないかということで、

墓地まで案内してくれた。そこには雪丸家の墓がずらりとならんでいた。3分の1くらいは雪丸家の墓だった。初めて訪れた知らない土地ではあるが、自分の先祖がこの地で生きていたのかと思うと不思議な気持ちになると同時に、どことなく懐かしく思えた。

雪丸という集落の名前の由来は何なのかとそのお婆さんに尋ねてみると、詳しいことはわからないが、昔からこの集落には真田幸村が住んでいたとかいう言い伝えがある、集落の上の山に入っていけば墓石らしきものもあると教えてくれた。もし、それらが本当ならば、雪丸(ゆきまる)は幸村(ゆきむら)をもじったものだろうか。

その墓石を見に行く時間はなかったが、何かしらの縁があるのではないかと思い福岡に帰ってから少し調べてみた。すると、真田幸村の薩摩落ち伝説について書かれたホームページがあった。そこには、「鹿児島外史(島津外史)」や頼娃町の「郷土史」などの記録などを交えながら真田幸村の薩摩落ち伝説が書かれている。

幸村の薩摩落ち伝説については、他の異説とは異なり、歴史的背景と多数の記録や伝承がある点で事情が違う、とホームページの作者が述べているが、薩摩落ち伝説はありえないといった考えも多くある。私自信も半信半疑である。ただ個人的にはこの伝説が真実であれ嘘であれ、とても夢がある話だと思うので今後も調べていこうと思う。

(雪丸 久徳)

日中の架け橋となる人材育成NPO設立

昨年の8月から中国と日本の架け橋となる将来の人材育成のために、NPO法人の準備を進めてきたが、ようやくこの7月に認証を受け、登記が完了した。

ご存じのように中国からやってくる就学生、留学生の中には、渡航・滞在費を親だけでなく親戚も含めた支援によって来日している学生もあり、そういう学生は、少しでも生活費を稼ぐためにアルバイトに精を出さざるを得ない。もちろん最初から稼ぎを目的に来日する学生も存在しているが、多くの学生は、日本での高い生活費に苦労している。その結果起こった一部の学生の事件によって、(受入れる日本側の学校自体の問題もあるが)本気で勉強しようという学生まで、来日を制限されてしまうという事態が発生している。

せっかく日本で勉強したいという希望を持ち、将来は日本のファンになる可能性も持っている若者を日本が拒絶しているということである。

それならば、日本ではなく、中国で日本語を勉強し、日本での勉強コストを少しでも軽くし、さらに優秀な人材を日本企業にも就職してもらうことで、将来の日中の架け橋となる人材を育成しようというのがこのNPO設立の目的である。

そのため、中国でどういうことができるのかを調べるために、昨年中国の大学、企業、日系企業などいろいろな人たちと会い、話を聞いた。そのなかで、日中の架け橋となる人材の需要の大きさ、日本の対中国への情報発信の不足、中国の若者が日本に対して持っている憧れ、日本企業の人材活用方法に対する諦めなど、様々なことが現地に行ってようやく理解できた。

しかしそれは、日本人がそれぞれ持っている中国に対するイメージと同様に中国人も日本に対するイメージがそれぞれに異なっているのは当たり前のものであり、中国の多くの人々にもっと日本のことを知ってもらうことが最も重要ではないかと感じた。そこでNPOでは、今年度最初の事業として、8月末に北京中央民族大学（中国の漢民族を含めた各民族の高等人材育成のための大学）と教育部等の数名による福岡への視察団の招致を行うこととした。

当面は、中国の将来を担う人材育成機関である大学との連携を深め、福岡、九州、日本をまず知ってもらうことから始め、いずれは彼らが日本で学び、日本、中国の企業に就職し、日本と中国の双方の発展を担うことを期待したい。

（山辺 眞一）

NPO法人概要

名称 中国・日本人材教育開発機構
 理事長 丸山 孝一（福岡女学院教授）
 事務局 久留米市中央町33-6

目的

中国の優秀な人材に対して高度人材開発事業等を行い、日本と中国の友好的な文化交流・科学技術交流・経済交流等を推進しもって中国と日本の相互理解の促進と国際協力の実現に貢献する。



『江戸宇宙』
 桐山 桂一
 新人物往来社

本書は、東京新聞朝刊に2002年10月から2003年10月まで連載されていた「江戸宇宙」の記事をまとめたものである。江戸時代研究家や、江戸文化を継承している方々などに、東京新聞記者の桐山氏がインタビュー取材を行い、書かれている。

本書のコンセプトは、江戸時代の文化に着目することで現代文明の姿を見つめなおす、というものであり、効率主義で成果主義、浪費型で自然破壊型の現代文明に対して、持続的で循環型、自然共生型の江戸時代の暮らしから学ぶ点は多いと感じた。また、地縁や血縁を重んじて、礼節や他人への配慮を忘れない人々の暮らしは、現代人が忘れかけているものであるということを実感させられる。

本書には、そういった日本の古き良き文化を取り戻そうとしている方や、町並みや農村の原風景を取り戻そうと活動している方々の活動も多数紹介されている。例えば、神奈川県城山町で、江戸時代の農業を理想としながら無農薬の農産物宅配を行っている方々、琵琶湖のヨシ群落を再生する活動を行っている方、江戸時代に植林された雑木林である東京武蔵野台地をお手本に、板橋区の団地に雑木林を植林した方など、実際に活動をされている方々のお話が面白かった。

その中で、私が最も感動した話がある。2002年、岐阜県南西部、長良川沿いの3町合併の際、新市名を公募したところ、「薩摩」「美濃薩摩」「薩摩義」など、九州鹿児島薩摩藩に関連した市名案が多数寄せられた。それはなぜかという、住民が1754年の長良川宝暦治水の工事に薩摩藩の協力を得たことに関係する。宝暦治水の際、江戸幕府は、外様大名の財政疲労を狙い、長良川の治水に薩摩藩1000人をあてた。治水工事中、薩摩藩士は幕府に対する抗議と悲憤の念から、週に一人ずつの計54人が切腹し、責任者である薩摩藩家老平

田籾負も工事完成後、切腹したという。現在の長良川流域の住民はこのときの感謝の念を受け継ぎ、市名に託したということらしい。

またその縁もあり、1993年、鹿児島県で大水害があった際には、岐阜県が十数人の県庁職員を派遣し、災害復旧にあたったという。近所づきあいや血のつながりといった身近な縁でさえも薄れていっている現代において、250年前の都市間の縁を現代でも大事にしているというのはすごいと感じた。

余談ではあるが、この本には田園楽住の取り組みが「個族化がすすみ、消えつつある地縁をつむぎ直す試み」として紹介されており、当社の系乗が登場している。 (原 啓介)



『おなかすいてない?』

山際千津枝
海鳥社

著者の山際さんは、今年の3月に食に関するフォーラムのコーディネーターをイゴスの山口さんを介してお願いをした料理研究家です(よかネット69号に記事掲載)。山口さんに連れられて、山際さんのキッチン&オフィスで初めてお会いした時、昼食をご馳走になりながらの四方山話で、この本を出す準備をしていると言われていたのを覚えていました。

食べることは好きな人でも、料理の本を見て、作ってみようかという人はなかなかいないと思います。そういう人を狙って作られたかどうかは分かりませんが、この本を読んでいると、作ってみようかなと思ってしまう雰囲気があります。

例えば、冒頭の「ごはんを炊く」ではその辺の鍋での炊き方を紹介、また作ったことのある人も多いと思いますが、「焼きうどん」にひと味付け加えた「卵とニガウリの焼きうどん」、「素麺」に鶏挽肉を加えた「かけ汁素麺」など、料理を普段しない男性でも作れそうだなというメニューがたくさん出ています。

その気になれるのは、山際さんの話術の雰囲気

が、文章にも表れているせいかもしれません。

「おなかすいてない?」目次
まず知っておこう
ご飯食べてかない?
わが家のいつものアレ
まとめて作って明日は楽
作りたくない日はコレ
みんなでコレ
お茶飲んでかない?
平気へいき簡単だから
北九州発 私の自慢料理
食彩歳時記

(山辺 眞一)

編集後記

異常気象という言葉はあまり好きではない。気象には元々ある程度ぶれがあるものだし、毎回「異常だ」というならそれも含めて「通常」なのだろう。しかし、今年は各地の最高気温や降水量が過去(といっても観測史上)最高というニュースをよく聞いた。ある市の人も「あんな集中豪雨が来たら防災計画が役に立たない」と言っていた。やっぱりこれは異常なのか。だが、100年に一度の大雨も、100ヶ所あれば毎年どこかで起こる計算だ。まわりで異常だと騒ぐのは楽しいが、まずは異常かどうかを見極めよう。(伊)

家では扇風機・自然風派の私も、溶けるような熱さに負け、会社でも家でもクーラーをつけることが多かった今年の夏。お盆を過ぎれば朝夕は少し涼しくなってきました。あんなに熱くてうらめしかった夏も、四季の中で終わるのが寂しいと感じる季節なのが不思議です。(あ)

よかネット No.71 2004.9

(編集・発行)

(株)よかネット

〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3番8号
福岡パールビル8階

TEL 092-283-2121 FAX 092-283-2128

http://www.yokanet.com

mail:info@yokanet.com

(ネットワーク会社)

(株)地域計画建築研究所

本社 京都事務所

TEL 075-221-5132

大阪事務所

TEL 06-6942-5732

東京事務所

TEL 042-501-5231

名古屋事務所

TEL 052-265-2401

(株)地域計画・名古屋